

2020年度第1回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2020年10月2日(金)10:00~12:10
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
各拠点のTV会議端末拠点及びSkype
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員、小林委員
(※大久保委員はアメリカからSkypeで参加)
4. 審議概要:
 - (1)2019年度第4回契約監視委員会議事要旨及び契約監視委員会活動まとめの報告
事務局より前回委員会議事要旨及び2019年度契約監視委員会活動のまとめについて報告があり、了承された。
 - (2)2019年度第4回契約監視委員会アクションアイテムの報告
 - ① エレベーター工事発注における入札・契約手続きの見直しについて
調達部より、エレベーター工事発注における入札・契約手続きの見直しについて、試行的に行っていた工事希望型競争入札制度を取りやめ、一般競争入札に戻すことについて説明がなされ、委員からは、結論に異論はないが、今後の改善のためしっかり分析をしていただきたいと意見があった。
 - ② 2020-2024年度BPO契約進捗状況について
調達・財務BPOチームより、本資料は本日現在でRFP手続き期間中であり、中身については委員会構成員限りとさせていただく旨発言のもと、資料4をもとに説明があり、次回、再度報告することとなった。
 - (3)2020年度調達等合理化計画の第1四半期実施状況の報告について
調達部より、第1四半期分の随意契約や一者応札・応募の各契約実績と前年度同時期との比較の説明、及び他の取組に関する実施状況の報告があった。委員からは、第1四半期の一者応札が増えていること、逆に随契は減っていることについて、新型コロナの影響などがあったのか質問があり、まだ分析はできておらず検討する旨の回答があった。
 - (4)2020年度第1四半期に新規に締結した契約の点検
2020年度第1四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったものを中心に点検を受けた。その結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内

容は別紙のとおり)。

(5) 契約審査委員会の改善状況について

調達部より、2019年度第2回契約監視委員会で上げられた2つの課題「プロジェクト等事業の調達戦略を俯瞰したうえでの審査が十分にできていない」「ルーチンとしての業務に多くの時間が割かれている」に対して4つの施策に取り組む旨の説明があった。委員からは、客観性と審査の効率の観点から、審査基準の明確化についてどのように考えているか質問があり、テンプレートや審査基準の明確化について同時並行で取り組まなければならない、新たに随契基準を設置するほか、基準の下の運用指針についても整理し、取り組んでいきたいとの回答があった。

その他

- ・事務局から契約監視委員会設置規程の委員の除斥条項(第8条)について周知がなされた。
- ・次回の委員会は、12月7日に開催することとした。

第1回 2020年10月2日

競争性のない随意契約			2件	① 種子島宇宙センター 第3移動発射台(ML3)マストの切断 ②-1 令和2年度「きぼう」日本実験棟を利用する実験の支援(宇宙医学)
競争入札	一般競争	価格評価	3件	②-2 2020年度「きぼう」日本実験棟を利用する実験の支援(生命科学) ②-3 2020年度「きぼう」日本実験棟を利用する実験の準備・実施支援(物質・物理科学) ③ 相模原キャンパス飛翔体環境試験棟エレベータ設備全面改修工事
		総合評価	1件	④ 2020年度～2024年度 環境試験設備等の運営・利用拡大事業
企画競争			1件	⑤ 2020～2022年度 宇宙教育情報誌「宇宙のとびら」の制作

主な質疑等は以下のとおり。

① 種子島宇宙センター 第3移動発射台(ML3)マストの切断

[競争性のない随意契約]

本件は、種子島宇宙センターで実施する、H3用ML5のVAB(大型ロケット整備組立棟)進入のため第3移動発射台(ML3)に荒天対策等を施し野外保管する必要があることから、アンビリカルマスト(上部マスト、下部マスト、下部マストからデッキまでのマスト根本部)を切断し、地面に取り下ろす作業を行うものである。

本契約については、当初、荒天対策作業を台風シーズン前(7/31)までに完了する予定であったものが、その後、F9 打上時に判明したRFリンク課題のリスク排除のため、マストを根元(デッキ部)まで切断する作業が追加が必要となったため、7月末を目途にマスト根元まで切断完了しなくてはならず当初計画より早く6/3に業者に作業開始指示を出す必要があったことから、「緊急の必要があるため、競争に

付すことができないとき又は不利と認められるとき(契約事務実施要領第 69 条第 1 項(セ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、「セ」項の採用にあたり、ML5の実績で契約業者に声をかけたという事だが、ML5の契約に関しては競争性のある契約をされていたかという質問があり、ML5の方は射点工事という大きな契約の中の一部であり、契約業者はその下請けとして参加していたとの説明があった。

② 1 令和2年度「きぼう」日本実験棟を利用する実験の支援(宇宙医学)

[競争性のない随意契約]

2 2020年度「きぼう」日本実験棟を利用する実験の支援(生命科学)

3 2020年度「きぼう」日本実験棟を利用する実験の準備・実施支援(物質・物理科学)

[一般競争・価格評価方式]

本件は、「きぼう」日本実験棟を利用する実験のうち「宇宙医科学」「生命科学」「物質・物理科学」の各分野の実験テーマについて、実験要求の取りまとめ等、ISS実験に特有な作業に関して研究者を支援する業務である。このうち宇宙医科学分野については過去複数回継続して入札を実施しているが結果として一者応札が続いており、今後も一者応札が継続すると見込まれることから「機構が過去に複数回締結した契約と実質的に同じ仕様の案件であって、過去の契約を締結した際に一者応札又は一者応募が続いているとき(契約事務実施要領第69条1項(テ))」を適用したとの説明が担当者よりあった。また生命科学分野、物質・物理分野については、それぞれ入札公告期間を44日確保し、複数社の入札説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、実験運用支援業務には高度な科学的専門性と宇宙実験の特殊性に精通し、専門能力、知見、経験を有する要員を業務に従事させることを条件としているが、これらの条件を満たす人材を集めて業務を遂行することが困難であったと考察しており、他の人材派遣会社等にも説明会を実施する等応札者拡大の努力を継続していくものの、応札業者の拡大は困難な状況にあるとの説明があった。

委員からは、一般競争入札とした生命科学分野、物質物理分野について、結果的に1社だったけども目星として複数社の応募の見込みはあったのか質問があり、担当者から、随契で行った宇宙医学よりは専門性、特殊性という点でできる社があるとの希望があり競争入札を引き続き継続している旨説明があった。また、委員よりコストダウンや業務効率化について、随意契約で確保できるのであれば、積極的に検討を進めていただきたいとのコメントが寄せられた。

③ 相模原キャンパス飛翔体環境試験棟エレベータ設備全面改修工事

[一般競争・価格評価方式]

本件は、整備から36年が経過し老朽化が進行している相模原キャンパス飛翔体環境試験棟(東側)のエレベータ設備について、全面改修を行うものである。入札公告期間を45日確保し、複数社の入札説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、配置技術者・作業員の確保が困難である等の業者側都合によるものであるが、今後は、公告期間や工期・現地作業期間を長く確保するとともに、早期に発注することで繁忙期を避けるよう配慮することや、工事内容の理解促進を図る対策を実施する旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、繁忙期にあたる12月から3月の間としていた現地工事期間をずらすことはできないのか質問があり、担当者から、実際の工事期間は12月から3月までの間の1~2カ月程度と見込んでいること及び工期9か月のうちの前半は工場での制作にあたり、生産ラインの融通性を優先したものである旨の説明があった。

④ 2020年度～2024年度 環境試験設備等の運営・利用拡大事業

[一般競争・総合評価方式]

本件は、JAXA が所有する環境試験に関わる設備等を今後も効率的かつ確実に維持しつつ、環境試験に関わる技術・設備を宇宙開発のみならず産業界へ利用拡大することを目指し、設備の運営管理形態を従来の請負契約からより効果的に民間活力を用いた PPP/PFI 手法を用いた契約へと見直したものである。入札公告期間を当初公告で65日、不落後の再公告で15日確保し、複数社の入札説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、各事業に対する経験値不足など業者側都合によるものであるが、今後は参入しやすい仕様の在り方や、より参入しやすい条件などを検討する旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、保守点検管理と利用促進や営業分野を別の契約で募集する考えはなかったのかとの質問があり、担当者より、利用促進については、スケジュール管理を行う中で空いている時間を活用して行うものであり、全体のスケジュールリングを含めて一社でやっていくことで、外からの試験も効率的に取り入れられるものである旨の説明があった。

⑤ 2020～2022年度 宇宙教育情報誌「宇宙のとびら」の制作

[企画競争]

本件は、宇宙教育活動の理解増進及び全国展開を目的として、青少年(小学校高学年以上)を対象とした宇宙教育情報誌「宇宙のとびら」を制作するものである。企画競争で実施し、入札公告期間を55日確保し、複数社の説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、競争

時が小学校での新学習指導要領全面導入と重なり、業務履行に必要となる人員確保ができない等の業者側都合によるものであるが、今後はより公告期間を長くするとともに、学習指導要領改訂など、競争参加が期待される出版社等への影響の有無を確認したうえで契約期間や公告期間を設定する等を検討する旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、いままで参加資格を A 等級だったものを2等級下位の C 等級まで広げたという事だが、もっと広げてよかったのではないかと質問があり、担当者から、今回は規程上許される範囲の2等級下まで下げたが、結果として1社しか応募がなかったため、次回はさらに等級を広げるか検討したい旨回答があった。

以 上